■新収資料の紹介　「富札」の知らせ
■史料館からのお知らせ

沼津市明治史料館通信

二〇一五年一月　通巻120号

名誉新談
伊庭八郎

八郎ハ剣道名誉の達人にして忠勇膽力衆人に勝れたり君家瓦解の秋に至り其身脱籍して有志を募り義を挙て各所に屯す就中函根の一戦に多勢と戦ひ左の腕を落す然りと雖も勇気屈せず片手にて忠義を立んと三ケ保軍艦に乗し銃子沖にて沈没のをり片手にて波涛を游ぎ僧と扮て横浜に到り佛人の助けを得て箱館へ渡海し数度戦功あり後五稜城の病院に終る時に廿四才

松林亭伯圓述

新収資料の紹介

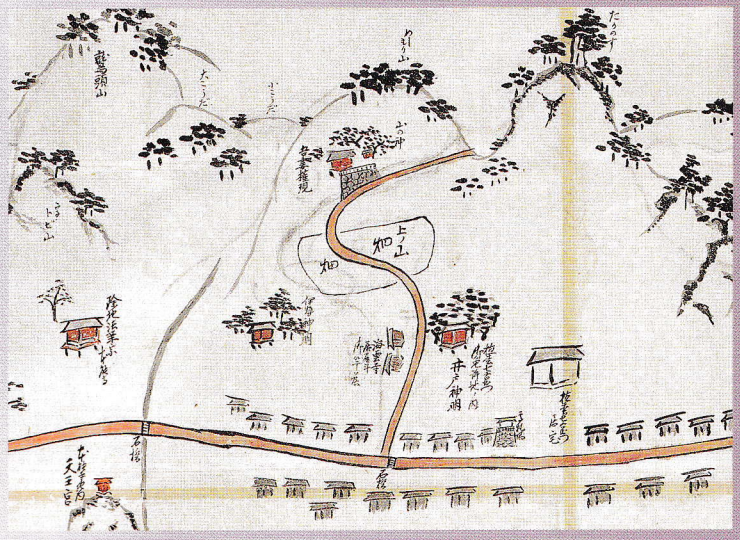
「富札」の知らせ

「年末ジャンボ宝くじ」など現代の我々にも身近な存在である「宝くじ」。その起源は江戸時代の初期、摂津国箕面（現在の大阪府）の瀧安寺で毎年正月に行われていた富会といわれている。当初は当選者にお守りを授けるものだったのが、次第に金銭と結びつき、「富籤」として町に氾濫するようになったため、元禄五年（一六九二）、徳川綱吉の時には禁令を出したほどだった。しかし、幕府は寺社にだけは修築費用調達の一方法として認めた（御免富）。その後、天保十三年（一八四二）、天保の改革によって全面禁止となり、以後、昭和二〇年（一九四五）一〇月に「宝くじ」という名称で「政府第一回宝籤」が発売されるまで、富札は発売されなかった。

本稿で紹介するのは、獅子浜村（現沼津市獅子浜）で安永三年（一七七四）正月に告知され、同年五月興行となっている「富札」の木版刷りの知らせである。

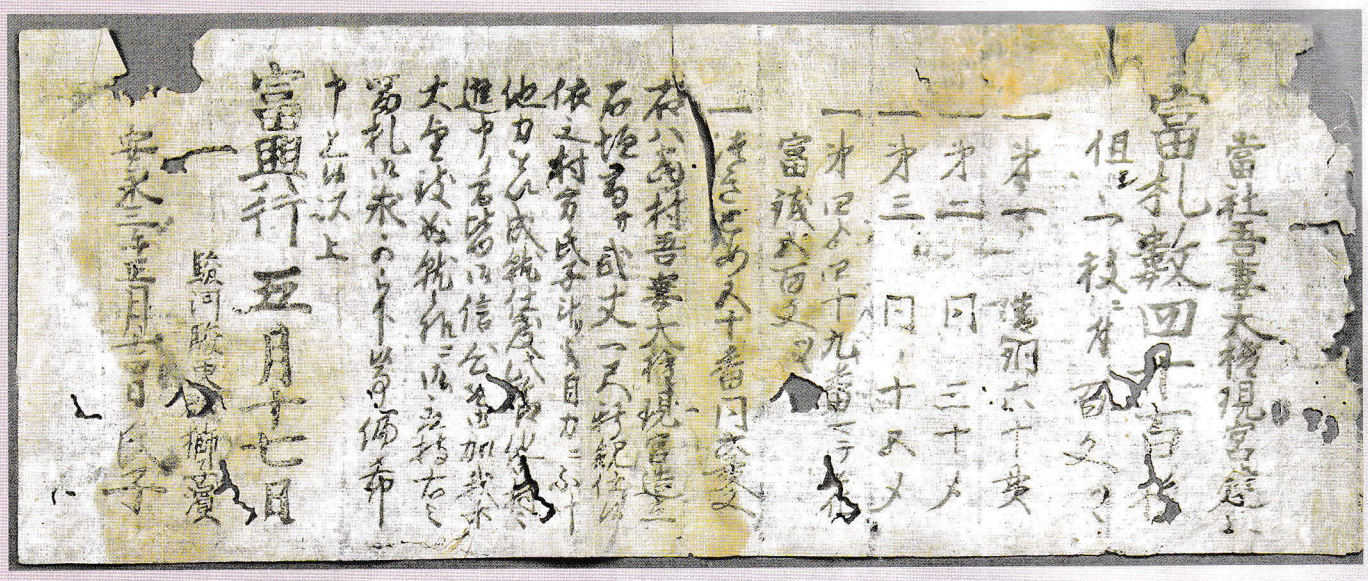
「獅子浜村絵図」（慶応四年（一八六八）六月）には、集落から「めしもり山」と「たかのす」の間を越えて江浦村に抜ける山道の途中に「吾妻権現」が記されている。この吾妻権現に高さ二丈一尺（約六・三メートル）の石垣を新規に造立するが、自村だけでは資金を賄えないので、他村からの協力を仰ぐという目的で興行したものである。吾妻神社の説明板には、「安永三年に再建されたと伝えられる」とあり、社殿の再建に際して石垣も新築したものと推測される。

資料を見てみると、富札四千百枚を一枚百文で売り出すとされている。一文を約十円と換算すると、富札一枚あたり約一千円であり、現代の宝くじと比べると多少高額な印象を受ける。当選金を見てみると、第一が青銅六十貫、第二が三十貫、第三が十五貫、第四から四十九番が五百文、「つきとめ」（突き留め。最後の籤）の五十番が六貫となっている。一貫は一千文なので、現代の貨幣価値では、一番約六十万円、二番約三十万円、三番約十五万円、四から四十九番約五千円、五十番が約六万円といったところである。



▲獅子浜村絵図（部分）
慶応４年（1868）
獅子浜植松家文書・当館所蔵

富札を全て売り上げたと仮定したとき、売上金は四十一万文（※現在の貨幣価値に換算して約四百十万円。以下同様。）、払戻金が合計十一万四千文（※約百十四万円。払戻率約二七・八パーセント）、収益は二十九万六千文（※二百九十六万円。収益率約七二・二パーセント）となっている。何らかが当選する確率は四千百分の五十（約一・二二パーセント）、一番の当選率は四千百分の一（〇・〇二五パーセント）であり、現代のジャンボ宝くじの何らかが当選する確率一千万分の百十二万二千六十一（一一・一パーセント）、一等一千万分の一（〇・〇〇一パーセント）と比べれば一等は当たりやすいといえる。期待値を見てみると、富札一枚約一千円あたり



当社吾妻大権現宮建立
富札数四千百枚
但シ一枚ニ付百文ツヽ
一第一　青銅六十貫
一第二　同　三十貫
一第三　同　十五貫
一第四ヨリ四十九番マテ花
富銭五百文ツヽ
一つきとめ五十番同六貫文
右ハ当村吾妻大権現宮造立
石垣高サ弐丈一尺新規仕候
依之村方氏子斗リ□自力ニ不叶
他力を以成就仕度此筋他□村々
進申候間皆御信心を御加我等
大望致成就候様ニ御取持右の
富札御求可被下候事偏希
申上候以上
富興行　五月十七日
駿河駿東郡獅子浜
安永三午正月廿四日　氏子

◀現在の吾妻神社
沼津市獅子浜
平成17年（2005）、現在地に移転された。

の期待値は約二百七十八円、平成二十六年のグリーンジャンボ宝くじ一枚三百円あたりの期待値約百四十五円と比べるとかなり厳しい数字となっている。

実際にこのときの富札興行がどのような結果となったのかは、残念ながらよくわからない。当時の獅子浜村の家数は、延享三年（一七四六）の村明細帳によれば家数九十五、人数四百五十八とある。周辺の志下、馬込、江浦、多比、口野といった現在の静浦地区の村々を合わせても約五百軒ほどであろうか。村民は社殿の再建に対して寄進をしているだろうし、「割札」と呼ばれる共同購入方法があったとしても、当時の生活水準・生業構造などから推測すると、全ての家が富札を購入したとは考えにくい。むしろ、名主や津元など富裕層から中間層のみが購入できたと考えると、かなり広い範囲に知らせたものと推測される。現に本資料は吉田町から発見されたものである。散見の限りではこれに類したあるいは関係した資料が見当たらず、購入範囲については明らかにできない。読者諸氏からのご教示をお願いしたい。

史料館からのお知らせ

★2月23日㈪は富士山の日　無料開放となります。
どなたでも無料で観覧できます。
★2月24日㈫～27日㈮の期間、展示入替作業のため
休館となります。

開館30周年記念特別展「沼津兵学校とその時代」

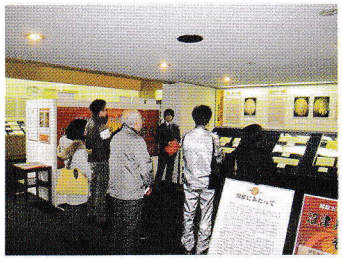
2月23日㈪まで開催中

▲図録表紙

図録も刊行しました。監修樋口雄彦氏、91頁、オールカラー。平成21年に刊行した図録『図説沼津兵学校』を補完するものです。展示会場には見本も置いてあります。

ぜひご観覧ください。

12月13日㈯、1月10日㈯午後2時からギャラリートークを行いました。


ギャラリートーク▶の様子

次回は、2月7日㈯午後2時より予定しておりますので、ぜひご来館ください。なお、ギャラリートークへの参加は無料ですが、観覧料はかかりますのでご注意ください。

平成27年度も開催します！

近隣の小学生のみなさんが江原素六について学習した作品をお借りして、来年度も「江原素六学習作品展」として展示し、そろくまつりには発表をお願いしたいと考えています。日程は下記のとおりです。

江原素六学習作品展　平成27年4月18日㈯～5月17日㈰
第9回そろくまつり　平成27年5月17日㈰開催　無料開放

◀そろくまつりの発表会の様子

前回の作品展▶

沼津市明治史料館通信
第120号
平成27年1月25日
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL055－923－3335
FAX055－925－3018
印　刷
みどり美術印刷株式会社

表紙の解説

名誉新談　伊庭八郎

（当館所蔵）

明治７年（1874）の作品とされる。伊庭八郎（秀穎、1844～69）は、心形刀流宗家の剣客で幕臣。遊撃隊を率い沼津・箱根を経て箱館戦争で戦った。描いたのは歌川国芳門下の浮世絵師大蘇芳年（1839～92）。文章を記した２代目松林亭伯圓（1834～1905）は講釈師。同じ「名誉新談」シリーズには「近藤勇」もある。